



「熱性けいれん」いわゆる「ひきつけ」という言葉を一度は聞いたことがあると思います。これまで経験がなくても子供がけいれんしたらどうしようかと心配する方も多く、また実際に子供がけいれんを起こしたことがあれば、また起きないかなどと心配している方もいるのではないのでしょうか。ここではその症状、起こったときの対処法を紹介します。

★どんな病気？

主に生後6ヶ月から5歳ぐらいの乳幼児が38度以上の発熱に伴って起こるけいれんや一時的な意識障害のことを「熱性けいれん」と言います。なかでも3歳ぐらいまでの乳幼児に多く、6歳以降はほとんど発症しなくなるのが熱性けいれんの特徴です。基本的には一過性のものですが、場合によっては再発することがあります。

★主な症状は？

熱の上がりをはじめや下がりかけに起こりやすく、多くの場合は意識が無くなり、全身が硬直し、ガクガクと体を震わせます。しかしこの症状は、ほとんどの場合2～3分以内で治まります。この他に高熱時に意識がはっきりしないで数分間一点を見つめ続けるような状態も熱性けいれんの症状の1つと考えられます。

★けいれんを起こしたときの対処法は？

- ①まず、慌てないようにしましょう。
けいれんはとても長く感じますが、普通のけいれんは2～3分で治まります。
けいれんを止めようとして、体を抑えたり、ゆすったりしないようにしましょう。
- ②衣服を緩める。
硬直した体を締め付けないように衣服等を緩めましょう。
- ③顔を横向きにする。
吐きそうな時や吐いてしまった時には、喉に詰まらないように横向きにし、吐いている状態なら口のまわりを拭いてあげましょう。
舌を噛むことはありませんので、口の中に指や物を入れないようにしましょう。
- ④様子を観察する。
顔色や目の動き、けいれんの状態、呼吸の状態など子供の様子をよく見て、あとで主治医に詳しく伝えられるようにしましょう。また、けいれんが続いた時間や現在の熱が何度あるのか測ってみましょう。
- ⑤様子を見て冷やす。
体温発散のため薄着にして、脇の下や足の付け根、首筋などを冷やしましょう。



★こんな「けいれん」はすぐに医療機関を受診「119番通報」へ

- ・はじめて起こしたとき
- ・5分以上続くとき
- ・熱が高くないのに起こしたとき
- ・1日に2回以上起こしたとき
- ・けいれん後、意識が回復しなかったり、体の動きがおかしいとき
- ・体の一部だけのけいれんや、左右の差が強いとき
- ・生後6ヶ月未満、または6才以上で起こしたとき

